



ハートフルなんぶ

2024. 12月号 vol. 309



長野市立南部図書館

〒388-8006

長野市篠ノ井御幣川 1201 番地

TEL (026) 292-0143

FAX (026) 292-0559

<https://library.nagano-ngn.ed.jp/>

年末年始の休館のお知らせ

令和6年12月29日(日)～令和7年1月3日(金)まで休館となります。

ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

本の返却は返却ポストをご利用下さい。

※ CD・DVD 付きの資料、大型絵本、長野図書館の AV 資料は返却ポストでは
ご返却いただけませんのでご注意ください。

Essay

「昔の七五三と大掃除」

寄稿：ひよこ豆

一年間には様々な伝統行事があります。そこで11月の七五三と12月の大掃除について書いてみます。

11月には七五三。昔皇族の男子が5歳になると、初めて袴をつける「^{ちやっこ}着袴の儀」が行われました。子は碁盤の上に乗る袴をはかせられます。そして碁盤から飛び降ります。これを「深曾木の儀」と言いました。(平成23年には悠仁親王も行いました。)江戸時代ではこの儀式は武家や裕福な商人の間にも伝わり、そこから一般庶民に七五三の儀式として広がりました。昔の人にとっては子どもが3歳、5歳、7歳を無事に迎えることはとてもめでたいことでした。

松代藩主の子どもは江戸で暮らしていますが、11月15日に無事に七五三を迎えると、松代では城下の侍たちも正装をしてお城に上り、お祝いの言葉を述べるとお酒と赤飯をいただきました。

年末には大掃除があります。江戸時代の大きな屋敷では、大掃除の後にはなぜか胴上げをする風習があったそうで、昔の絵にも描かれています。勝海舟という江戸城無血開城を成し遂げた幕臣がいますが、その人の屋敷でもあった面白いエピソードを紹介します。

明治11年12月23日は大掃除の日。勝家ではみんな朝4時には起きます。勝海舟と息子の小鹿は掃除が嫌いで、出かけてしまいます。屋敷の女性十人で畳や障子を外し、隅々まで掃除します。夕方それが終わったあと、一人の女中が男性の袖に手をかけると、それを合図に元気の良い女中たちが笑いながら突進してきて男性を囲み、高々と胴上げして落としました。逃げようとしてもまた捕まえては胴上げしてまた落とす。男性も抵抗して引っかいたり噛みついたり、歯も折れたり。それでも女中たちは大喜びで胴上げし、男性は散々な目に会い、笑い声と悲鳴が外にも響きました。これは勝海舟の邸内に住んでいた米国人クララ・ホイットニー(のちに海舟の三男梅太郎の妻となる)の日記にあるエピソードです

出典『クララの明治日記 下』 クララ・ホイットニー／著 講談社 ※所蔵なし



今月の 新刊案内

- 『まず良識をみじん切りにします』 浅倉 秋成／著 光文社 <Fア>
 『遊廓島心中譚』 霜月 流／著 講談社 <Fシ>
 『夜更けより静かな場所』 岩井 圭也／著 幻冬舎 <Fイ>
 『音のない理髪店』 一色 さゆり／著 講談社 <Fイ>
 『婚活マエストロ』 宮島 未奈／著 文藝春秋 <Fミ>
 『身辺整理』 森永 卓郎／著 興陽館 <289.1モ>
 『暖簾の紋章』 村中 憲二／著 現代書館 <335ム>
 『花と暦を楽しむ366日』 森乃 おと／著 玄光社 <470モ>
 『日本ご当地おかず大全』 菅原 佳己／[著] 辰巳出版 <596ス>
 『あたらしい西洋アンティークガラスの教科書』 大野 聖子／著 翔泳社 <751オ>
 『言葉の道具箱』 三木 那由他／著 講談社 <801ミ>
 『はじめてイラレ』 イラレ職人コロ／著 インプレス <007イ>
 『本と出会う本』 仲谷 栄一郎／著 弘文堂 <019ナ>
 『かんたん、かわいい愛犬ニット』 成美堂出版編集部／編 成美堂出版 <594カ>
 『スープジャーとおにぎり弁当』 しらい のりこ／著 成美堂出版 <596シ>
 『7歳になったら読む猫の長生き健康ぐらし』 獣医にゃんとす／著 大和書房 <645シ>
 『オキナヨモギに咲く』 サロメーヤ・ネリス／著 ふらんす堂 <989ネ>



- 『日本の祭り解剖図鑑』 久保田 裕道／著 エクスナレッジ <386ク>
 『日本の365日に会いに行く』 永岡書店編集部／編著 永岡書店 <386ニ>
 『季節のなかの神々』 小池 淳一／著 春秋社 <386コ>
 『七十二候を楽しむ野草図鑑』 大海 淳／著 青春出版社 <470オ>
 『12か月のおうち懐石』 榊 せい子／著 世界文化社 <596サ>
 『いちばん親切な練り切りの教科書』 藤本 宏美／著 山と溪谷社 <596フ>
 『日本の一年、節目の一皿』 ワタナベ マキ／著 小学館 <596ワ>
 『エコクラフトで作るつるし飾り』 丹野 安祐子／[著] ブティック社 <754タ>
 『nanahoshiの季節を楽しむ歳時記おりがみ』 たかはし なな／著 主婦の友社 <754タ>
 『日本の歳時記』 コロナ・ブックス編集部／編 平凡社 <911.3ニ>
 『京都のいちねん』 小林 由枝／著 角川書店 <386コ>
 『旬を楽しむおとなの献立12カ月』 小平 泰子／著 京阪神エルマガジン社 <596コ>
 『福を招く干支のお針仕事』 日本ヴォーグ社 <594フ>
 『わくわくほっこり二十四節気を楽しむ図鑑』 君野 倫子／著 二見書房 <449キ>
 『喋々喃々』 小川 糸／著 ポプラ社 <Fオ>

12月のテーマ 「歳時」



南部図書館 開館カレンダー

開館時間：午前10時～午後6時

■は休館日です

2024年12月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2025年1月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

※2024年12月25日(水)は蔵書整理日のため、12月29日(日)～2025年1月3日(金)は年末年始休館として、休館させていただきます。